

災害時水道施設における拠点給水説明会にご参加ください

日ごろから断水時に備えましょう

災害発生時には、さまざまな場面で水が不足します。市では、地震などによる断水時、三島市指定避難場所で応急給水を行います。主要な配水池の近隣にお住いの皆さんは、配水場まで来ていただければ貯留した水の配給を受けることができます。実際の断水時における迅速な行動、自助・共助の意識向上を目的に、平成26年11月12日に現地見学と説明会を実施しました。



現地見学、説明会の様子

この現地見学と説明会には北沢低区配水場より1 km以内の、災害により道路の通行ができない状況で、徒歩にて配水場から水を運搬できると想定される（厚生労働省、水道の耐震化計画等策定指針）東大場、多呂、北沢、錦が丘、夏梅木、大場の自治会の皆さんが参加しました。今後は、以下の給水拠点にて、順次説明会を行う予定ですので、ご参加ください。

【説明会実施箇所】

北沢低区配水場、末広配水場、水源区配水場、塚原新田配水場、赤王山高区配水場、中区配水場、伊豆島田浄水場、高区配水場

飲料水と生活用水を用意しましょう

非常備蓄品とは災害復旧までの数日間を自活するためのものです。1日1人3 lの飲料水が必要です。市民の皆さんには、7日間自活できるだけの水の備蓄をお願いします。

生活用水はプラスチックのタンクなどにいれて保存してください。また風呂の水を次に入るまで、残しておく習慣をつけると、いざというときに生活用水として利用できます。

問合せ 水道課（☎983-2659）

防災講演会～命を救う地域の救護活動～

大規模災害時には、多数の負傷者が同時に発生し、医療スタッフが不足します。三島市の災害時の医療体制や求められる救護活動について学ぶための講演会を開催します。

とき 3月8日(日)午後1時30分から

ところ 順天堂大学三島キャンパス11番教室（大宮町）

内容 ▶「三島市の災害時の医療体制」、講師：鈴木衛さん（三島市医師会災害対策担当理事）▶「災害時の医療と市民トリアージ」、講師：大村純さん（NPO 法人災害・医療・町づくり副理事長）

入場料 無料

定員 240人

申込み・問合せ 危機管理課（☎983-2650）

※駐車場はありません。近隣の有料駐車場または公共交通機関をご利用ください。



▲電子申請は
こちらから



わたしたちの自主防災組織

夏梅木町内会 青柳 操さん

災害時には、夏梅木の本部設置と向山小に避難所本部が設置されるため、2カ所に人を配置します。今年の訓練では、同時に2カ所の本部設置訓練を実施し、



夏梅木本部では組からの情報収集訓練を行いました。次回は、トランシーバーなどを使用し避難所と夏梅木本部の通信確認を行いたいと思います。災害図上訓練（DIG）も役員、組長ごとに実施しています。3月に町内に居住する大学生が講師となり、大学生の視点による子ども教室を実施していく予定です。中学生も防災訓練に約50人参加し、今後、一層地域一体となって防災に取り組んでいきます。

江戸・明治の さおばかり おもり 桿秤の錘

前回に続き、現在開催中の企画展「はかる道具」に合わせて、郷土資料館が所蔵する秤に使われた錘・分銅を紹介します。

江戸時代、重さを量る道具には「さおばかり」と呼ばれる桿秤と天秤がありました。天秤は両替商のみが使っていたため、多くの人にとって重さを量る道具といえば桿秤でした。(写真①)



▲写真① 桿秤

天秤に使うおもりを「分銅」、桿秤のそれを「錘」といいます。一つの天秤に分銅は複数必要ですが、桿秤は錘を左右に動かして使うた

め、一個で足りません。桿秤は守随家・神家というふたつの家が「秤座」として秤の製造・販売などを独占していました。そのため、桿秤やその錘には「守随」や神家初代の名である「神善四郎」といった秤座の刻印が押されています。(写真②・③)



▲写真② 守随の刻印がある



▲写真③ 神善四郎の刻印がある

ただし、両家で日本中で使われる秤を作ることは不可能だったため、各地に出張所が作られています。県内では、駿河府中(現静岡岡市)に守随家の出張所がありました。

明治に入ると秤座の特権は廃止され、各県に一人ずつ秤の製作請負人が定められます。守随家・神家も東京・京都の請負人となり、全国への影響力はなくなり、出張所を

含めた秤座の関係者かその縁者などが製作請負人となる例は多かったです。

当時の静岡県(現在の県中部)は、秤座の出張所であった河瀬家が秤の製作請負人になり、秤の製作を継続し、現在も「河瀬衡器製作所」として営業を続けています。

河瀬の社章は重さを量る道具の象徴といえる「後藤分銅」を3つ組み合わせた形をしています。「後藤分銅」とは江戸時代に作られた天秤用の分銅のことで、当時は京都の「後藤家」のみに製造が許されていたことからこのように呼ばれていました。



▲図① 銀行の地図記号

また、江戸時代に両替商が使っていたことから銀行の地図記号に、この分銅の形が採用されています。(図①)

明治以降の錘に、この河瀬家の社章の付いたものを見つけることができます。(写真④)



▲写真④ 河瀬家の社章



ふるさとの人物ゆかりの地①

おおむらわきちろう
大村和吉郎

大村和吉郎英春は明治時代に活躍した大場村(現三島市大場)の実業家です。山林開墾や清酒醸造、また養蚕や椎茸栽培などで成功していた大村家の女婿となり、家産をさらに増やして伊豆第一の富豪とも言われました。

和吉郎は伊豆国勸業資金の制定や大場銀行の設立で産業振興に尽力したほか、大場村に小学校を設立するなど教育にも貢献しました。明治七年(一八七四)に開校した大場学舎は、大村家が提供した資材により建てられました。和吉郎はのちに衆議院議員となり、衆議院全院長などを務めました。在職中の大正四年(一九一五)には正六位に叙せられましたが、同年十二月に亡くなっています。

現在、大場神社には彼の功績をたたえた顕彰碑が残されています。



▲大村和吉郎顕彰碑(大場神社)